

コメントへの応答

油井 大三郎・區建英・趙星銀

コメントへの応答①

油井 大三郎

第一点の丸山眞男にとつてのアメリカ思想の意味についてです。私は丸山思想の専門家ではないので、お答えがしづらいのですが、この間、丸山さんがアメリカの近代政治学をどのように読んできたかを調べる中で非常に興味深いと思つたのは、丸山さんがアメリカ流の近代政治学の本を読んで非常に分かりにくいという反応をしめたことの意味についてです。それは、丸山さんが親しんできたドイツ思想で語られるような体系的や歴史的な展望がアメリカ思想には希薄であるためだろうと思います。それをアメリカ思想の欠点とする受け止め方が日本では強かつたと思いますが、この問題の背景には、アメリカの政治学や思想一般の傾向としてプラグマティズムの影響が根強く存在す

るという問題があると思います。つまり、アメリカでは、現実生活のなかで思想がどのような効用をもつかとか、現実生活の改良にどう役立つのか、という実践的な関心が強いので、体系的よりは実用性を重視する傾向が強いのだと思います。このような実用主義的な傾向は戦前の日本の思想の中では弱かつたので、丸山さんもだいたい戸惑つたのではないかと推測しています。

しかし、他方で、丸山さんは、日本の思想がドイツなどを中心としたヨーロッパの輸入学問的だという点を批判し、日本の現実に根ざした思想に作り変える必要性を強調してましたので、現実社会での思想の実用性を重視するアメリカ流の思想に興味をもつたのではないのでしょうか。また、丸山さんは、ジャーナリストであつた父親やその友人の長谷川如是閑の影響でアメリカの大衆文化やジャーナリズムにも関心をもつていた関係で、現実社会の新しい動向に絶えず鋭い関心を持ち続けていた点にもプラグマティズムとの接点があつたと思います。戦後の早い時期に丸山さんが鶴見俊輔などの誘いを受けて、知米

派知識人を中心とする思想の科学研究会に参加したのもそのせいだと思っと思っています。

第二点のアメリカ思想を中心に学んだ日本の学者と丸山さんとの違いの問題ですが、これは世代差の問題につながると思っています。戦後に政治学などの研究を始めた世代の多くは、アメリカに留学し、アメリカ流の近代政治学や近代経済学を摂取して帰国し、戦後の日本でアメリカ流の近代諸科学を広める上で大きな役割を果たしました。しかし、その近代諸科学は資本主義体制内の改良には強い関心を抱きました。が、体制自体を歴史的に相対化する姿勢は弱かったと思います。それに対して、丸山さんは、戦前のヨーロッパ思想の影響を受けて、戦後も歴史性や体系性を重視した学問を継続していましたので、その点に差異があると思います。

この点に関連して興味深いのは、一九六〇年代に入り、アメリカでは人種問題やベトナム戦争の影響をうけて、マルクス主義なども含めたラディカル諸科学の復興が起こった点です。日本史研究の分野でも、マルクス主義の方法を取り入れて研究をしていたE・H・ノーマンが一九五〇年代の赤狩り時代には無視されていたのに、一九六〇年代に若手であったジョン・ダワーなどによって「発見」され、復権を遂げてゆきました。しかも、そのきっかけは、自殺したノーマンに対する丸山さんの追悼文の英訳をアメリカの若手研究者が発見し、それがアメリカの日本史研究学界におけるノーマン復権につながったということとです。

コメントへの応答②

區 建 英

私は主に中国文化圏での丸山の受け入れ方を紹介しましょう。翻訳書について、台湾では、先に『日本政治思想史研究』（台湾商務印書館、一九八〇年）と『現代政治的思想与行動』（台湾聯經出版、一九八四年）がありました。大陸では、私が翻訳した丸山の福沢論『福沢諭吉与日本近代化』（学林出版社、一九九二年）が最初で、この訳著は後に『日本近代思想家福沢諭吉』に改題されて再出版されました（世界知識出版社、一九九七年）。後に王中江さんも『日本政治思想史研究』を訳して出版しました（三聯書店、二〇〇〇年）。また私と劉岳兵さんと共訳した『日本の思想』（三聯書店、二〇〇九年）もあります。これらの訳書によって丸山真男が人々の視野に入りましたが、同時に丸山に関する紹介や論述も少数ながらありました。中でも孫歌さんが言った丸山の「ジレンマ」（両難）説が広く伝わり、一つの丸山イメージとなっております。

しかし実は静かな中で、人々は丸山の福沢論をよく読んでいます。より多くの人に読んでもらうと期待した北京大学教授の努力があつてこそ、『福沢諭吉与日本近代化』が再出版されました。大陸では非常に多くの人が読んだに違いありません。台湾も同じで、二〇一三年秋私

が台湾を訪れた時、ある大学院生が『福沢諭吉与日本近代化』を手に持っており、台湾大学図書館から借りたと言う。その本は長い年月を経た古本のように、手に触れられるところは濃い茶色になっています。

今この訳著は売り切れましたが、電子版があり、大陸と台湾の大学教授は電子版をネットから利用して授業に使っていると言う。本の内容についての反応は様々ですが、大多数の読者は感銘を受けて高く評価します。ただし福沢に違和感を持つ読者も少なくありません。福沢の「脱亜論」などのアジア論への視線は厳しく、これは福沢の「脱亜論」の背景を説明するだけで解消できることではないようです。そういう説明は無用で、福沢のアジア論に問題があると人々は思っています。だからと言って、福沢の全思想を否定することにはなりません。むしろ丸山の福沢解釈を通じて価値ある思想を受け入れています。福沢より丸山への関心が高いようです。『日本の思想』は出版されて数カ月、ベストセラーになりました。

これに対し、丸山の徂徠学研究は大陸と台湾の学界にとっても受け入れ難いところがあります。それにもかかわらず、中国文化圏の研究者から見れば、それは必ず対面しなければならない、避けて通ることができない重要な存在です。今、研究者は伝統の欠陥の克服を図りながら、伝統の優れた要素を救出しようとし、朱子学を思想的検討の重要な対象としていますが、その中で丸山の徂徠論が重要な参照としてたびたび取り上げられています。

丸山に関する学術論文は韓国ほど多く出ておらず、本格的な論文が

中国に現れたと思えません。それは私見では、丸山が人々の研究対象とされているのではなく、人々自身自身の思考に導入され、問題意識を共有しあるいは交錯する存在となっているからだと思えます。この意味で、丸山思想史学は、今の中国にとって一つの貴重な知的資源だと言えるでしょう。

コメントへの応答③

趙 星 銀

第一に、丸山において植民地朝鮮の経験が兵隊経験と重なっている点である。つまり、兵隊においてはエリート出身の二等兵であったため、上官から虐められる弱者の位置にあるが、植民地の人々からは日本帝国の兵士として恐怖と憎悪の対象として見られるという、被害者と加害者としての両面性をここで経験したと思われる。丸山の終戦直後の論文「超国家主義の論理と心理」に登場する「抑圧移譲」、即ち上から加わった抑圧を下のものに移譲して行く暴力的な秩序の分析の背後には、この経験からの実感があつたと思われる。

第二に、敵と味方の区分に政治的なるものの本質を規定するシュミットの政治観が丸山の政治学に大きな影響を与えている点から考えると、朝鮮半島の分断状況は丸山政治学のケース・スタディとして非常に興味深い問題である。休戦状態のまま成り立っている二つの国家

は、その国家の正当性が敵と味方の区分のみにあることになるからである。さらにそのような政治的大状況が、社会、経済、文化などの領域の隅々まで滲透し、各領域において本来は独立的であるべき価値の問題を決定する「政治化」が非常に顕著な社会でもある。さらに丸山の分析枠を通して韓国と日本を比較することは、どこまでが「日本的」なものか、或は「アジア的」なものかを考えるためにも有用であると思われる。

第三に、「国籍性」の問題に関しては、丸山が膨張主義的な超国家主義ではなく、一国に限定された健全なナショナリズムの価値を評価している点を想起してもらいたい。個々の自律的な構成員たちが、一つのバウンダリーの中で共同体を形成し、維持することの重要性を丸山は意識していたと思う。おそらく個々人の間の健全な関係の延長線上で、国家と国家の間の理想的な関係を構想したと思われるが、このような健全なナショナリズムの持つ政治的価値について、もう一度考える必要があると思われる。

シンポジウム「現代世界の中で丸山眞男をどう読むか」

ご案内

プログラム

□開会挨拶【11:00～11:10】 小野 祥子 (東京女子大学学長)

□講演【11:10～12:20】

刈部 直 (東京大学教授) 「政治のための教養—丸山眞男百歳」

□パネルディスカッション 司会 平石 直昭 (東京大学名誉教授)

第1部 報告【13:15～14:45】

油井 大三郎 (東京女子大学特任教授) 「丸山眞男とアメリカ文化の交錯」

區 建英 (新潟国際情報大学教授) 「丸山と中国の近代的思考の模索—私の世代の体験を中心に—」

趙 星銀 (東京大学大学院法学政治学研究所) 「韓国における丸山眞男」

第2部 討論【15:00～16:20】

コメント 轟 莉莉 (東京女子大学教授)

□閉会挨拶【16:20～16:30】 大久保 喬樹 (東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センター長)

総合司会 安藤 信廣 (東京女子大学現代教養学部長・研究プロジェクト代表者)

会場 東京女子大学 24202 教室 (24 号館 2 階)

◆昼食について

昼休みの時間帯に限り、会場内で昼食をお召し上がりいただけます。会場付近にてお弁当の販売がございますので、ご利用ください。11号館1階でも軽食を購入できます。11号館2階と2号館3階の食堂もご利用いただけますが、昼休みの時間帯は大変混雑いたします。近隣の飲食店、コンビニエンスストアもご利用ください(裏面のキャンパスマップ参照)。

営業時間: 11号館食堂・2号館食堂ともに 10:30～16:00

◆「丸山眞男文庫」開架書架見学について

本日、図書館地階の「丸山眞男文庫」開架書架に配架されている丸山眞男氏旧蔵図書・雑誌(書き込み等のないもの)を、昼休みの時間帯(12:25～13:10)に限りご見学頂けます。ご希望の方は、シンポジウム受付にて専用の「見学者シール」を受け取り、ご持参のうえ昼休みの時間帯に図書館までお越しください。なお、ご見学できる人数には限りがあります。シールが無くなり次第、受け付けは終了とさせていただきますので、何卒ご了承ください。

◆茶話会について

シンポジウムの終了後、2号館3階ホールにて茶話会を開催いたしますので、ぜひご参加ください。申し込み不要、参加費不要です。